

授業日時/教科・単元 算数科 / 「面積」(複合図形の面積の求め方)

授業者 萩原 英子 教材作成者 萩原 英子

ジグソー型の授業を実践していかがでしたか。以下の点についてコメントをおきかせください。

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・ 2回目の協調学習ということもあり、授業スタイルについては混乱もなく、最初から意欲的に学習に向かっていた。
- ・ 事前に本時の課題について、家庭学習等で自分の考えを持って、参加したこともあり、自分の考えと比べながら、学習を進めていたようだ。
- ・ エキスパートの資料について
【Bの資料】式から、考えを見つけるのは割とスムーズにいていた。
【Cの資料】同じ図形を2つ使っているということに自力でたどり着いた班は1つ。もう一つは指導者が数値と辺の長さについて支援したのち、時間ぎりぎりになってなんとかたどり着いた。
【Dの資料】この図の中に、7cmの辺がないため、かなり苦労していた。8×7で求められる長方形を図の中に示してやると、切って移動するとよいということが見えて「ああ、わかった！」とひらめいたようだった。その後は自力でなんとか説明までいきついたようだった。
- ・ ジグソー活動の場面では、自分の持ちよった考えを、一人で説明するのに、エキスパートで十分な自信を得られなかった児童は、困っていた。しかし、他の児童から「この数字はここじゃない？」などと一緒に考えてもらう姿もみられた。
- ・ 名前を付けることは大変楽しんで取り組んでいたようだった。
- ・ エキスパートもジグソーも時間設定がやや短く、「まだ時間がほしい」という感じだった。
- ・ 前回同様、4つの学校が集まったの学習だったが、話し合いは活発に行われていたと思う。
- ・ 全体的に、前回よりもさらに「楽しかった」「またしたい」という感想が増えた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

【うまくいった点】

- ・ 事前課題として、各自が自分の考えをもって授業に臨んだので、課題把握の時間が短縮された。また、自分の考えの変化や広がりについて気づきをもつことができた。事前に自分の考えを持つことで「自分で解きたい」という欲求はある程度みだされるのではないだろうか。このことは、指導者は児童の考えについて、事前の把握ができるメリットもあり、また、児童が授業ののちどのように変容したか（あるいは変容しなかったか）をつかめるメリットもある。
- ・ 4つの考えを提示したかったために、1番スタンダードな方法を全体で確認したことで、児童は活動方法や内容、目的地を具体例で把握することに役立った。そのことでエキスパートが1つ減ったのでジグソー活動の時間も短縮された。
- ・ 式から考えをみつけ、図に示すというスタイルは、授業の中でなかなか取組めていない活動で、時間はかかったものの単に考えを図で示して計算を考えるよりも、児童の話し合いが活発化する要因になったと思う。【ただし、児童実態によっては、図から式を立て考えを説明するという活動の方がよいこともありそうだ。】
- ・ 考えにネーミングを付ける活動は、児童の意欲を高めた。また、「名前を見れば方法がわかるようにつける」ということで考えをより抽象的にとらえることになり、そこで協調的な学びの姿が起りやすくなると感じた。児童のつけた名前は個性的で、児童らしい表現であり、一部

授業日時/教科・単元 算数科 / 「面積」(複合図形の面積の求め方)

授業者 萩原 英子 教材作成者 萩原 英子

抽象的すぎるものもあったが、その後の別の問題を考える際の手掛かりとして印象的になるものが多かった。

- ・その後用意していた発展問題を解いている様子を見ると、3/18の児童が、本時の学習を生かして、問題を解くことができていた。またその後の複合図形の求積問題の定着度には、個人差があるが、本時のことが印象深く残っており、考える手がかりになっているようだ。

【改善したい点】

- ・授業の導入の時間をもっとカットする。普段指導していない児童が多かったこともあり、それまでの既習内容を確認するなど無駄な時間が多かった。また、事前に課題を解いてきていることを考えれば、すぐにエキスパートAの資料を使った全体指導へ入れば、時間短縮につながる。
 - ・エキスパートの資料難易度がやや違いがみられた。なかなか均等にはいかない。
 - ・今回のような「多思考型」の場合、シグソー活動が報告型になってしまう。ネーミングという活動を仕組みでなんとか話し合いにはなったが、ここで、新たな課題に取り組むということも考えられる。
 - ・45分では、予定していたことが終わらなかった。今回は、授業のまとめまではできたのでよかったが、発展課題を解くことで、初めて児童の理解度が図られることを思えば、同時間内に発展課題または、適用題を解かせたい。そこまで同時間内に入れてしまおうと考えれば、2コマ扱いで、それぞれの活動にももう少し時間の保証をした上で、適用題、続いて発展課題へとつなげていく授業プランの方がよいかもしれない。教科書では、1時間扱いとなっているが、児童の理解促進、定着の実態を考えれば、2コマプランも必要かもしれない。
 - ・発展課題は、「問題に応じてより良い方法を選択する」こともねらって用意した。しかし、躓きやすい児童のことを考えれば、まずは、同じような形の問題に1つ取組ませたほうがよかった。
 - ・説明の仕方では、「式」から説明しようとする児童が多かった。まずは「図」で考えの概観を説明した上で、式につなげていくと相手に伝わりやすいということ(ある意味スキルであるが)も身に付けられるように授業内で助言すればよかった。
- ③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

【メリット】

- ・理解の遅い児童、自分の考えを持ちにくい児童は、普通の授業ではどうしても受け身になりがちである。「協調学習」を目指した授業では、一人一人に役割があり、また、仲間の力も借りながら、説明する必然性と達成感が与えられる。
- ・算数の授業が「楽しい」と児童も指導者も実感できる。「一緒に学ぶことのよさや楽しさ」が味わえる。
- ・(K授業のように合同の授業でも)話題が明確であり、話し合いが活発になる。
- ・指導者の教材に対する見方が深まる。また、「協調学習」を挟んで、普通の授業でどのような力をつけておけばいいかを自覚し、それを確認しながら授業を進めるようになる。

授業日時/教科・単元 算数科 / 「面積」(複合図形の面積の求め方)

授業者 萩原 英子 教材作成者 萩原 英子

【デメリット】

- ・教材作成に時間がかかる【でも、あまり苦にはならなくなりました・・・。】
- ④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。
 - ・「多思考型」？「組み合わせ型」？どちらもやってみたが、前者の方が自分は考えやすい。